赤羽御坊

赤羽別院報 第51号
発行所
真宗大谷派
赤羽別院　親宣寺
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72－2308
Eメール
akabane_betuin@katch.ne.jp

生れた意義と生きる喜び

ストレス社会

現代の日本は、世界有数の経済大国になり、世界で一番の長寿国となりました。

幸せの条件としていたものを手に入れ、豊かで便利になりましたが、一方で、平成二十三年まで九年連続で三万人超、その後も毎年二万五千人以上の方々が、自ら命を絶っているストレス社会なんです。いい時代になったとは、とても言えない世の中です。

自死の原因をみると、一に健康問題、二に経済・生活問題、三番目に家庭問題です。年代層をみると、六十代・四十代が多く、社会や家庭の中心で、まさに、生産性価値に応えていく年代の人たちです。

現政権の景気優先政策の影響か、現代社会は、経済力がなければ普通の生活ができず、阿部眞雄さんが言われる「全人格労働」つまり、多くの人々は、生きていくには人生の全てを仕事に注ぎこんでいかねばならない時代であり、このことがストレス社会を助長させることになっています。

いつの時代にもストレスはあるのですが、今は、そのストレスを解消することが容易でない時代なのです。

家族や仲間との関係やコミュニケーションの変化により、家族や身近な人とゆったり話をしたり、遊びに出かけ「ああ楽しかった」ということが少なくなってしまったのでしょうか。本来は日常生活の中で、身近な人との間で自然にストレス解消がなされなければならないのに、今日ではそれが許されないのです。

累念積慮

如来さまは、私たち人間の本性というものを全てお見通しなのです。

私たちは、どういう位置に立って生きているかというと、全て「私の念い」なのです。『無量寿経』でのおもいは「念い」です。ひたすら、自分の念いを重ねているのですが、それを「累念積慮」といいます。

人間というのは、常に自分の念いが満たされたときに「幸せ」と思います。念いが叶うことを願って一生懸命になるのです。

念いどおりになるようにと、恵方巻を食べたり、豆を播いたり、厄払いをしたり、先祖供養したりしながら生活しているのです。

そして、その念いは通じれば「生れた意義と生きる喜び」は満たされるように錯覚するのですが、念いは次から次へと変って切りがなく、また、厄介なんです。

『無量寿経』の「累念積慮為心走使無有安時有田憂田有宅憂宅」即ち「念いを累ね慮を積みて、心のために走せ使いて、安き時あることなし。田あれば田を憂う、宅あれば宅を憂う」ということです。

こんな私たちだから、不安・不満がいっぱいでストレスは避けられないのです。

しかし、考えてみたら、このストレスは「このように生きていたらあかんぞ！自分の念いだけで生きていたら間に合わんぞ！」と私たちに気づかせてくれるものであり、心がそのようにいただいているのです。それが如来さまの用きなのです。

如来のはたらき

如来さまは「人間を生きていく意味は、いただいた『いのち』をそのまま喜べることで、念いどおりに生きることではありませんよ。」と私たちに気付かせようとはたらいて下さっているのです。

苦悩と出遇ってはじめて、私の心に響いてくる声が聞こえてくるのです。

親鸞聖人は、曇鸞大師のご和讃の中に「罪障功徳の体となる　こおりとみずのごとくにて　こおりおおきにみずおおし　さわりおおきに徳おおし」と示しておられます。

これは、私たちは「念いどおりになるように」と生きていますから、失敗や間違いを必ずします。それがあるから私たちは真実に気づき易いということです。

氷と水みたいなものです。氷は冷たく困ったものです。

ところが、その困った氷もとければ爽やかで清らかな水になります。

厄介な心、あぶない心があるからこそ、「自分は当てにならないな」と気づく、それによって信心を得ていくことができると聖人は私たちに説いてくださっています。

感情受容

日常生活では、私たちは自分の感情を無条件に受容されることは、まずありません。普通は、道理や状況に照らし適合しなければ感情は受容されないのです。

しかし、鏡に映し出されるように己の感情を無条件に他者に受容されていくと、あるがままの自分を見つめることができるようになります。

そこで初めて、自分で自分の心や生き方を見つめる、第三者の眼というべき自己洞察によって、自分の内面に自分を苦しめていた根源があったことに気付けるのです。

それは阿弥陀如来の大悲によるものであり、人間は、先に自分が他者によって受容され、そして自分自身を洞察できるようになるのです。

生れた意義と生きる喜び

『無量寿経』の下巻には、この世界を「心得開明（心開明することを得る）」と説明されています。事実が念いどおりに変ったのではありません。

自分の念いの身勝手さに気づき、いただいた事実を受け入れたとき、自分の心は解放され、全ての人も、現象も、確信をもって受け入れ、自信をもって生きていくことができるということです。

清沢満之先生は「自己とは他なし、絶対無限の妙用に乗託して任運に法爾に、この現前の境遇に落在せるもの、即ち是なり」と述べられました。

自己の存在は、自分の念いどおりに成り立つのではなく、如来の用きによって成り立ち、いただいたそのままが、自分自身であるということです。

いただく全ての縁が私のいのちであり、不要な縁は一つもないということです。

事実を念いどおりに変えるのではなく「事実を受け止められない自分の心であった」と気づくことにより、自分の道が自ら開かれてくるということです。そのことに気づくことが「生れた意義と生きる喜び」ではないでしょうか。

お寺に期待するもの

カウンセリングは治療的カウンセリングと予防的カウンセリングに分けられます。

治療的カウンセリングは、専門家による心の治療を目的としたものです。

一方、予防的カウンセリングは、かつては、どこでも普通になされていたもので、家族や仲間によって、互いに話し手になったり、聴き手になったりしてストレスを解消し、心の健康を維持していたものです。最近の社会の変化で、そのような場が少なくなったからこそ、お寺やお寺の坊守が果すべき役割があるのではないかと思います。

相手の感情を受容することは、如来さまの用きによると説明するから、真宗のカウンセリングというのです。

相手の気持を受け止め、共感し傾聴する。それは如来さまから賜った力、カウンセラーは皆、如来の代官です。

カウンセリングにより救済される人も、浄土真宗の教えを聴いて救われる人も、みんな同じように如来の用きによって、自己再発見のみちを歩むことができるのです。

平成29年2月7日
赤羽ブロック坊守学習会
講　西賢師講話要旨

■講師プロフィール
講　西賢（ゆずり　さいけん）
1953（昭和28）年
岐阜県生まれ
名古屋大学大学院
教育学研究科博士課程満了
本願教化教導・岐阜聖徳学園教授
臨床心理士・学校心理士
大垣教区　慶圓寺住職
主な著書
「暮らしに役立つ真宗カウンセリング」
「今、ここに生きる歓び」他多数

別院行事のご案内

夏の御文（げのおふみ）

7月15日（土）午後1時30分
法話　岡崎教区駐在教導　杉山　寧師

赤羽ブロック世話方会総会

7月15日（土）午後3時

暁天講座（ぎょうてんこうざ）

8月21日（月）午前6時
講師　第14組　蓮成寺　青木　馨師
8月22日（火）午前6時
講師　第8組　安樂寺　伊奈　祐諦師

秋季彼岸会（しゅうきひがんえ）

9月22日（金）午後1時30分
法話　第13組　長壽寺　和田　大地師
9月23日（土）午後1時30分
法話　第18組　福万寺　北野　隆之師

助音講（じょいんこう）

報恩講助音・お勤めの稽古
9月中に2回を予定
※日時・講師　未定

報恩講に向けて清掃奉仕

教化センタースタッフ
赤羽ブロック世話方会　合同
10月上旬　日時　未定

報恩講（ほうおんこう）

10月14日（土）午後1時30分
法話　第7組　等周寺　天野　美津子師
10月15日（日）午前10時・午後1時
法話　第15組　明水寺　鈴木　聡師
10月16日（月）午前10時・午後1時
法話　第14組　安專寺　安藤　智彦師
法話　第4組　正願寺　三保谷　順師

晨朝法話（じんじょうほうわ）（午前七時）

7月13日（木）第8組　宿縁寺　織田　慶雄師
7月28日（金）同　福正寺　本多　友明師
8月13日（日）第9組　源徳寺　藤原　知實師
8月28日（月）同　正覺寺　櫻部　明師
9月13日（水）第10組　香嚴寺　鈴木　土平師
9月28日（木）同　妙專寺　林　良照師

寂しかった帰敬式
三名の仏弟子誕生

境内に咲き誇る満開の染井吉野と、別院関係者が見守るなか、去る4月11日、新たな仏弟子3名が誕生した。

本年は、例年に比べ些か寂しい受式となったが、人数の多少に拘らず、帰敬式は自らが仏・法・僧の三宝に帰依し、新たな聞法生活に歩み出す大切な儀式である。

式は、真宗宗歌・三帰依文の唱和に続いて、本山鍵役・信悟院殿による「剃刀の儀」が始まると、受式者は合掌のまま緊張の面持ちで臨まれた。

法名伝達では、受式者一人ひとりに「おめでとうございます」と、優しく声を掛けて手渡しされるなど、鍵役のお人柄が窺われた。

また「是非、日頃より法名を名告り、仏弟子としての道を歩まれますとともに、真宗の法義相続と宗門の護持にご尽力下さい」と、執行の辞（ことば）をいただいた。

受式者代表・第9組福泉寺門徒三浦正明氏は「今日のご縁を大切に、益々聞法に励み、真宗門徒の自覚をもって精進致します」と力強く誓いのことばを述べられ終了した。

記念写真の撮影の後、庫裡に移って「お斎」をいただくときには、表情も緩み和やかに談笑される光景があった。

ところで、帰敬式実践運動が始って、別院での帰敬式執行は21回目となるが、近年、その意義が希薄化しつつあると思われる。

生前に法名を賜わることの重要性が曖昧となり、推進する側も、どのように対応するべきか苦慮しているのが現状であるといえる。

ただ傍観するだけでなく、繰り返し呼び掛け続けていくことが寺方の責務であり、地道な努力の継続が求められる。

法名授与

誓いの言葉

馨敏郎師の法話
報　徳　会　厳　修

4月11日の午後、午前中の帰敬式に続いて、鍵役・信悟院殿御参修により報徳会が厳修された。

法要の後、信悟院殿から「過去と相手は変えられないが、未来と自分は変えられる。」また「これまでがこれからを決めるのではなく、これからがこれまでを決める。」という、示唆に富んだお言葉を戴いた。

法話では、第31組連福寺（静岡県掛川市）住職・馨敏郎師より「帰敬式は、これからの人生を仏弟子として歩んでいく、第二の人生の出発式で、このいのちは「終らないいのち」と気付いた時に頂戴する、仏弟子として生死を超えていく名前が法名」と明言された。

また、師が感銘した小児科医・細谷亮太さんの言葉「人間は、最初の1割は大人になるための準備の時間、次の8割は家庭や地域・社会で自分の役割を果す時間、最後の1割はその人らしさが失われたとしても許される時間で、しまいに乗り物がやってきて、それに身を委ねて次なる世界へ運ばれていく」を話された。

一方「ほっこり法話カフェ」に代表される、自坊の活性化に向けた具体的取組等、終始和やかな雰囲気であったが、時に、父親の余生や自身の体験談を涙ながらに話される姿に、聴聞者一同感動した法座であった。

やさしく語る馨師

大澤伸雄師の法話
殉教記念法要厳修

去る6月5日「大浜騒動」といわれ、明治新政府の「神仏判然令」により発せられた廃仏毀釈に異を唱え、殉死した護法有志の遺徳を偲ぶ殉教記念法要が、石川台嶺師縁りの地で営まれた。

安城市小川町の台嶺師のお寺・蓮泉寺では、午前11時から「護法有志の墓」前において墓前法要が営まれ、本山鍵役・信教院殿をはじめ、岡崎教務所長・第16組崇敬寺院住職や蓮泉寺和讃講の皆さま方など多数の人々が参拝された。

この後、台嶺師処刑の地・西尾市葵町では「巌護法城」と刻まれた殉教記念碑前で、平素よりこの碑を大切に管理して下さる地元の方々と一緒にお勤めがなされた。

午後には、満堂となった赤羽別院に座を移し、賑やかに法要を営み、第24組大覺寺・大澤伸雄師の法話を拝聴した。

師は「人生は思いどおりにならないことが多いが、阿弥陀様の本願があって有難い。私たちが生きていく力になります。どうぞ、お念仏を申す日暮しをして下さい。」と熱く語られ、堂内は念仏の声に包まれた。

満堂の参拝者

赤羽ブロック世話方会研修会
飛騨御坊・高山別院に学ぶ

赤羽ブロック世話方会研修会は、5月26日、41名が参加し、飛騨一円の門徒から「飛騨御坊・仲間の御坊」と親しまれている高山別院・光曜山照運寺を訪ねた。

本堂に参拝の後、高山教務所長で別院輪番・出雲路善公師より、鎌倉時代に白川郷鳩ヶ谷に起源し、三度の移転を経て高山に至った歴史等の説明を受けた。

ついで、幼くして両の手足を失ったが、強く生き抜いた中村久子氏の生涯について伺うとともに、寺宝館でパネル写真を拝観した。

「高山別院と門徒の絆」は数多いが、特筆すべき二話を紹介したい。

その1・ご回壇

別院が、本願寺歴代門首と照運寺開基・嘉念坊善俊上人の御影を携えて、毎年80ヶ所の崇敬寺院・会所に出向く、江戸時代から続く別院と寺院・門徒との絆を深める出前型の法座。

その2・御堂番

毎日、崇敬寺院から二名の門徒が「御堂番」として別院に出勤し、勤行や境内清掃等日直で奉仕するもの。

このように、寺院・門徒に支えられた、学ぶべきことの多い高山別院であった。

本堂に参拝

法話とアンサンブルコンサート
春季彼岸会を厳修

寒暖差の大きかった今年の3月、ポカポカ陽気に恵まれた19・20日の両日、赤羽別院では春季彼岸会がおつとめされた。

本年は初めての取組みとして、初日の法話に変えて第6回となる「みどうコンサート」が開催された。

バイオリン・熊谷祥子さんと、チェロ・波多和馬さんによるアンサンブルコンサートで、テーマは「おしゃべりクラシック」～みんな悩んで大きくなった～であった。

今回は、これまでの彼岸会と趣を異にし、参拝の皆さんに、法話に変ってゆっくりと音楽を楽しんでいただこうと企画され、テーマの如くおしゃべりを多くして、難しいクラシック音楽も、熊谷さんのやさしい解説入りで親しみ易いものとなった。

途中、熊谷女史がドイツの偉大な作曲家バッハのエピソードに触れ、「25人の子供に放蕩者が多くバッハの稼ぎは彼等の借金返済で消えた」と話されると、司会の辻くらし部長が、真宗中興の祖・第八代蓮如上人について「27人の子供は何れも優秀で、真宗の高揚に大きな功績を残された」と披露され、この掛合いに場内の笑いを誘った。

曲は、クラシックの他に日本の童謡から歌謡曲に及び、参拝者は皆歌を口ずさむ彼岸会となり、最後は恩徳讃で締められた。

二日目には、第2組順念寺住職・左右田智世師の法話を聴聞した。

始めに、テーマ「諸行無常」に合わせ、平家物語の冒頭の一節「祇園精舎の鐘の音、諸行無常の響きあり…」に節をつけて朗朗と語られた。

師はパソコンを使いスクリーンに写し出された「釈迦涅槃図」の絵解きをされ、阿難が泣きくずれている時、お釈迦様は最期の説法を行い、「あらゆるものは　流れ行き　うつろい　変っていくのだ」と解いたと話されたうえで、私たちは常に「老いたくない、死にたくない」と思っているが、それは真理に反くものであると説かれた。

彼岸会の二日間は好天に恵まれたが、昨今では往年のように満堂になることはない。

お寺も門信徒も、お彼岸の意味をあらためて問い直してみる必要があると考えますが皆さん如何でしょうか？

みどうコンサート

左右田師の法話

御修復成った本山に参ろう！
福正寺門徒の団体参拝

遅れ気味の桜が満開となった去る4月14日、第8組・福正寺では、その昔「都富士」と呼ばれた本山・東本願寺の「平成の大修復を了えた美しい姿を、一度はこの目で確かめよう」と団体参拝を実施した。

この趣旨に賛同した一行42名を乗せたバスは、福正寺の裏山・万燈山山頂から昇る朝日を背に一路目的地京都へと向った。

法要参拝や奉仕を目的としない気楽な団体参拝で、快適な高速走行の後満開の桜が待つ本山に到着した。

山門を潜ると、目の前には屋根瓦を一新し、飾り金具が黄金色に輝く阿弥陀堂と御影堂が展開し、一同は感動と感嘆の面持ちで、暫しその場に立ち合掌した。

両堂に参拝の後、諸殿の拝観も叶い、満足度百パーセントの参拝となった。

帰り道には、宇治の平等院に参拝し、小学校の修学旅行と全く同じコースと懐しむ声が聞こえた。

今回は、お年寄り中心の行程を組み声掛けしたことで、これまでにない団体参拝となった事が特筆される。

衣浦斎園友引休日撤廃を
碧南・高浜市に要望

第14組（組長・西光寺住職・清澤菩師）では、去る3月10日、隣接の高浜市と共同で運営される衣浦斎園に関し、「衣浦斎園の休日制に関する要望書」を、碧南市並びに高浜市に提出した。

衣浦斎園の運営については、過去に四度にわたり火葬炉の表記と併せて、「友引休日制」の変更について要望してきたところであるが、炉表記については数字から平仮名（いろは・・・）に変更されたが、休日制については友引休日制のまま今日に至っている。

今回の要望の主旨は、「友引休日制を撤廃したうえで、合理的な休日の設定を求める」ものである。

その理由として「『友引』は六曜からくるもので、迷信俗信といわざるを得ず、新暦・七曜を採用する現代では、市民のなかには異国籍の人も多く、行政がこれに固執することは問題である」というもので、全日稼動でなく、新たに合理的休日の制定を求めている。

近隣では、既に友引休日制を廃止した自治体がみられる状況にある。

この日は、清澤組長・木村健吾門徒会長以下5名が、碧南・高浜市を訪ね両市長に要望書提出、高浜市には第15組関係者も臨席した。

碧南市長に要望書

第14組
第15組

親鸞聖人七五〇回御遠忌
並びに庫裡再建法要を厳修

第12組
願海寺

去る4月30日、第12組・願海寺では親鸞聖人七五〇回御遠忌法要と併せて、庫裡再建落慶法要が賑々しく厳修された。

智光山願海寺は天長5（八二八）年に天台宗寺院として創立。14世紀中頃、覚如上人の時、第37世・念劉を開基として、浄土真宗に改宗され、今日に至っている。

昭和19年12月の東南海地震・同20年1月の三河地震により、本堂と共に庫裡も全壊するに至った。

本堂は昭和51年に再建されたが、庫裡は倒壊した建物の柱などを再利用して建てられ70年余もの歳月が過ぎていた。

第64世・壱郷証宣師の満座御礼では、大勢の方々の御願念により、庫裡の再建が叶った感謝の念と、念願成就の胸中を押さえきれず感涙の挨拶となった。

当寺を支えてきた大勢の門信徒共々称える、厳かな声明の響きに包まれ、幾多の困難を乗越え築き上げてきた、千二百年に亘る歴史の重みがひしひしと伝わってくる法座であった。

第8組宿縁寺住職・織田慶雄師の法話では、この日の法要の意義に触れつつ、日々の様々な実例を挙げて、念仏者の生活のありよう・仏道を説かれた。

市子町公民館を正午に出発した稚児行列は、稚児二六四名とその家族で千名を超す行列となり、四月とは思えない強い日差しの中を、願海寺境内へ向って粛々と歩みを進めた。

賑やかに稚児行列

花まつり三題

若院夫妻が取組む
初めての花まつり

第9組
正覚寺

去る4月1日、第9組・正覚寺では、「子ども達にも仏さまの教えとお寺を身近に感じてもらいたい」と、初めて若院夫妻企画の花まつりが開催された。

当日は、子ども達だけでなくご年配の方々も加わり、本堂は老若男女で賑わった。

まず、子どもによる供灯・供花から始まり、若院よりお釈迦様誕生のお話を聞いた後、参加者全員で誕生仏に甘茶をかけた。

甘茶の試飲では、初めての甘茶の味に戸惑いの表情を見せる子ども達と、懐かしいと目を細める年配者の表情を異にする姿があった。

この後、ゲームと紙芝居を全員で楽しみ、記念写真を撮影して幕を閉じた。

閉会後「この花まつりをきっかけに、今後も子ども達と一緒に、仏様に手を合わせる機会を持っていきたい」と語る若院に、控え目に笑顔で付き添う若坊守の姿が印象的であった。

コイン送りゲーム

悪天候の中大勢のお参り
花まつりスタンプラリー

一色町
仏教会

一色町仏教会では、去る3月31日、お釈迦様の誕生を祝う「花まつりスタンプラリー」を開催した。

他宗寺院を含む16ヶ寺の協力のもと、地域のお寺を多くの方々に知っていただこうと8年前に始まり、5ヶ寺以上をお参りして、証しのスタンプをいただいてゴールを目指すものである。

今年は、赤羽別院がゴールとなり、別院世話方スタッフが協力して、花御堂と甘茶を用意しお迎えした。

あいにくこの日はどしゃ降りの雨となったが、親子連れをはじめ百五十名程がお参りされた。

5ヶ寺以上お参り達成者に贈られる記念の賞状とお菓子を手にし、冷えた体を甘茶とストーブで温めながら世話方や知人と笑顔で会話する子どもさんの姿がとても微笑ましく見受けられた。

昨今、宗教離れ・寺離れの傾向にあり、お参りの減少が著しいが、子どもも大人も一緒に楽しめるこのような企画を大切な法縁として、今後も継続が望まれる。

大勢の老若男女が
フラワーアレンジメントに挑戦

第14組
専興寺

去る3月24日、第14組専興寺では「子どものつどい・花まつり」が開かれた。

誕生児初まいり式では、昨年誕生した赤ちゃんが紹介され、本山から授与された記念の品「お念珠」に添えてお寺から「数珠入」が贈られ参拝者全員でお祝いした。

住職がお祝いの言葉を述べた後、皆で「正信偈」がおつとめされた。

今年のメインイベントは「フラワーアレンジメント」で、子どもからお年寄りまで約50名が、若坊守と坊守の指導のもとに、色とりどりの生花を小さなカップに挿し、見事な花カゴを完成させていった。

花カゴには「お母さんいつもありがとう」など、自分の思いを記したメッセージカードを添えてラッピング仕上げをして、満足げな顔が印象的であった。

まさに、花まつりに相応しく「南無阿弥陀仏」三唱の声は一段と大きかった。

フラワーアレンジメント

夏の勉強会の御案内

◇第8組　同朋大会
8月26日（土）午後7時30分　西浅井町　宿縁寺
8月27日（日）午前10時　午後1時　貝吹町　福正寺　今治市　善照寺

◇第9組　夏期講習会
8月25日（金）午前9時30分　吉良町駮馬　良興寺
午後1時　共立女子大学教授　山本　聡美師
8月26日（土）午前9時30分　午後1時　東京都　因速寺　武田　定光師

◇第11組　暁天講座
各日　午前5時30分から　午前7時まで
8月17日（木）須田　浄齋寺
8月18日（金）順　海　唯法寺
8月19日（土）中　善福寺
8月20日（日）西小椋　恵琳寺
8月23日（水）中　聖運寺
8月24日（木）山下　常照寺
8月25日（金）上　正念寺
8月26日（土）平坂　無量壽寺
8月27日（日）楠村　本澄寺
8月28日（月）羽塚　惠教寺
8月29日（火）上矢田　浄徳寺
※講師　未定

平成33年に聖徳太子千四百回忌をお迎え致します。第11組では、本年から3ヶ年の暁天講座において、聖徳太子をテーマに学びを深めてまいります。

◇第12組　夏期真宗講座
7月1日（土）午後1時30分　鎌谷町　蓮光寺
愛西市　萬瑞寺　池田　真　師

◇第13組　夏期真宗講座
7月25日（火）午後1時30分　一色町開正　本浄寺
7月26日（水）午前9時30分　午後1時30分　一色町一色　安休寺　金沢市　常讃寺　藤場　俊基師

◇第14組　夏期真宗講座
7月11日（火）碧南市天神町　應春寺
午前9時30分　午後1時・7時
7月12日（水）午前9時30分　午後1時・7時
名古屋　長善寺　蒲池　勢至師

お食事処
花友
定食・すし・うどん・うなぎ・ランチ
定休日：毎週水曜日
営業時間：午前11時～午後9時30分
西尾市吉良町吉田亥改98
☎0563(32)0067

ご法要のお食事

洋室イメージ（和室もございます）
◆会場使用料2時間無料
◆10名様以上マイクロバス（27名乗り）送迎無料
ご予約・お問い合わせは宴会受付までお気軽にどうぞ
TEL（0566）41－7171（代）
衣浦グランドホテル　〒447－0867　碧南市田尻町1－1－9（明石公園前）

さわやかな秋の旅は。
ドラゴンズバック
名鉄観光バス直営店へ

■■■カルチャーウォーク・その24■■■

蓮如上人の里 あわら市 吉崎別院 福井市 福井別院 を訪ね

蓮如上人御影道中（御下向）に参加

蓮如上人縁りの地は、三河をはじめ各地に点在するが、北陸の地は上人が足掛け5年に及ぶ教化のなかで「御文」や「正信偈」のおつとめを通して、お念仏の声が絶えることのない「真宗王国」の礎を築かれた場所である。

蓮如さんに育てられ、脈々と受け継がれた宗風が生きているこの地を、まさに「蓮如上人御影道中・御下向」真っ只中の4月20・21の両日、吉崎別院並びに福井別院を訪ね、御影道中に参加する貴重なご縁に出合うことができた。

終生の念願であった「吉崎御坊参拝と蓮如上人御影道中参加」の目標達成を期して、4月20日蓮如の里・福井県に伺った。

一行4名はまず、越前の地に入られた蓮如上人が、布教活動のため暫らく逗留された坂井市三国町の智敬寺に参拝し、この寺に伝わる独自の蓮如絵伝・四幅を拝見させていただき、住職・木津師から丁寧な絵解きを拝聴した。

この御絵伝は明治期のもので、とても鮮明かつ解り易く描かれているのが特徴だった。

福井別院・橋立支院

次に、加賀市小塩町の妙徳寺にお参りした後、芳原住職の案内で福井別院・橋立支院に参拝し、その由緒等についてお聞かせいただいた。

文明3（一四七一）年に橋立道場として創建され、宝永年間に寺号・因隨寺が許され、明治13（一八八〇）年に福井別院の支院となった。

この地は、北前船の港で日本一豊かな村として栄え、門徒衆中心に護持運営され、今日に至っている。

この後、上人越前退去の折、小浜に向って船出された小塩浦の「蓮如上人北国御退去記念碑」前で焼香参拝した。

昭和26年より、上人に思いを馳せる人々によって、毎8月3日に法要が営まれている。

蓮如上人北国御退去記念碑

吉崎別院を訪ねる

浄土真宗中興の祖・八代蓮如上人の法燈継承により、急速に勢力が向上した本願寺を妬む比叡山の僧侶たちに、大谷本廟は焼き討ちされた。

この難を逃れた上人が、文明3年吉崎の地に辿り着き、一宇を創建し布教活動の根拠としたのが、柱間5間四方、向拝付きの本堂で、吉崎御坊と呼ばれる吉崎別院の草創となっている。

その場所は、現在の吉崎別院の奥の山で「御山」と呼ばれ、ここには「お腰掛けの石」や蓮如上人像が立てられている。

案内に従って御山を訪れ、各種の遺跡を巡り説明に耳を傾けた後、本堂に参拝した。

吉崎別院

この地には「嫁おどし肉付きの面」や「本光坊腹籠りの聖教」等、上人にまつわる逸話・伝説が残されている。

江戸時代に始った蓮如上人御影道中では、毎年4月23日の御影到着を待って、10日間の御忌法要が厳修され、全国から訪れる参拝者で大変な賑わいをみせる。

蓮如上人御影道中 御下向に参加

翌21日、今年で連続三四四回目の「蓮如上人御影道中・御下向」の行程中、最も難所といわれる木ノ芽峠で合流すべく、一行3名で敦賀駅前の宿を午前7時に出発した。

御影道中

御影道中は、御輿車に蓮如上人の御影（上人自ら残された御形見の肖像）を載せて、幸領（総括責任者）及び供奉人（御輿車の舵取り・交通安全の確保や「蓮如上人さまのお通り！」と告げて歩く先導役7名）につづいて、自主参加者が一緒になって、御輿車の前後につき、ロープを引いたり御輿車を押したりして進む、真宗大谷派だけの伝統を誇る大切な御仏事である。

木ノ芽茶屋付近の「言奈地蔵」で合流、茶屋の主・前川氏から話を伺った後道中に加わり、ロープを手にした時には感動と感激で、念願成就の満足感に浸ることができた。

途中、南越前町今庄の路端で、かつて何度も供奉人を務められ、今回はサポーターとして参加された、等覺寺門徒の村松利秋・粭夫妻の名が刻まれた「道標」を偶然に目にする幸運にも出合えた。

後髪を引かれる思いで一行と別れ福井別院を訪ねた。

福井別院本瑞寺を訪ねる

慶長10（一六〇五）年創建の福井別院本瑞寺は、4度の火災と空襲等で本堂が焼失・倒壊したが、その都度、門徒衆らの願念を結集し、再建を果し、現在の本堂は昭和44（一九六九）年に完成した、重層入母屋造りの大伽藍である。

福井別院

福井教務所長及び吉崎別院輪番を兼務される五辻信行師から、児童を対象とする毎月二回の「テラスクール」開設、吉崎別院の堂宇や環境の整備に対する積極的な取組み等々を伺い、久しく待望されている「吉崎別院と蓮如の里復活」を確信したところであった。

最後になりましたが、訪れた先々での丁重なおもてなしや、親切な取材対応に感謝し厚くお礼申し上げる次第です。

石川鴻英氏の御寄進 玄関幕一幅受納

別院の玄関を荘厳する「八藤紋白染め抜き玄関幕」一幅を石川鴻英氏より御寄進いただきました。

氏は、「赤羽御坊の編集をとおしていただいた、9年もの永きに亘る、赤羽別院とのご縁に感謝の証し」と話されました。

ナイスショット！

赤羽別院の桜

毎春、山門を潜ると、目の前に見事に咲き誇る桜の花が展開します。

昭和40年頃、旧本堂跡に3本・鐘楼前に3本・庫裡の前に5本合わせて11本の染井吉野が植栽され、超巨木に成長したものです。

一色で一番の桜といわれ、飲み物持参で、くつろぎながら花を愛でるグループや家族の姿が見られます。来年は是非ご覧になって下さい。

訃報

◆ 島津　志き様

第8組・慶恩寺坊守

平成29年4月23日御命終　享年　85歳

謹んでお悔やみ申し上げます

合掌

お詫びして訂正

赤羽御坊第50号1ページの法話記事中、五段目の小見出しに誤りがありました。謹んでお詫び申し上げ訂正致します。

誤　「優性思想」

正　「優生思想」

第17回 御坊俳壇・川柳

選者　三浦　貞葉氏他

俳句（順不同）

学舎の　声筒抜けに　寺若葉
細き雨　ふる木道の　柳萌ゆ
水輪にも　大小あり　花の池
ささやかな　喜びありて　貝母咲く
利休忌の　床に献茶と　菜の花と
花屑の　風にかたまる　一処
巣立ちの子　見守る親は　電線に
蓮如待つ　無住の寺や　菖蒲咲く
荒れ果てし　窯場のそばの　諸葛菜
蓮如忌に　八十路の吾も　読む御文

川柳（順不同）

現代病　私なりたい　花粉症　井上　啓子
パソコンの　部屋に神棚の　ある不思議　斉藤　浩美
母の日で　ハウスの中は　テンテコよ　小林　千里

お知らせ

定例の第18回御坊俳壇・川柳の締切は11月5日（日）です。

林　邦子
水頭うた子
三浦　眞樹
杉浦みはる
高橋　冬竹
古賀　敦子
大淡　美恵
平岩　芳魚
名倉美恵子
石川　松葉

編集室

地域の寺院やご門徒への密着した教化活動をとおして、別院の活性化を目指し設立された赤羽地域教化センターは、本年で設立10周年を迎えたが、その現況は如何なものであろうか？

本紙では度々指摘してきたが、事業の取組みには、財源の確保と人材の育成が必要不可欠であるが、現状は残念ながらその双方が不充分であり、機能が果されているとは言えない。

現在の4部門制の組織再編を含む機構の改革や、各部の連携強化・連絡網の整備を図るなかで、別院だけでは解決不可能な財政面については、上部組織のご理解を得るなかでの解決が望まれる。

さて、本第51号を以って現在の編集スタッフの任期が満了となり、引続き編集に携わる人・支援していく人・退任する人等様々ですが、広報部在任9年、その殆どを編集長として尽力された石川鴻英氏が、高齢と紙面のマンネリ化を嫌って、退任されたことは残念の極みである。

氏は、紙面の企画・構成から、取材交渉・担当スタッフから寄せられる草稿の校正・修整、また、自ら取材・写真撮影等々に全力で取組まれ、そのエネルギッシュな編集姿勢は尊敬に値するもので、スタッフ一同は「日本語はね」を口癖に文章をはじめ色々とご指導をいただき、お世話になった次第である。

「継続は力なり」の気概で、御坊新聞が末永く有縁の方々に愛されることを願い、この3ヶ年の御礼と致します。合掌

物品寄贈

一、ファンヒーター　一台

第12組 浄徳寺門徒　神谷　光明氏

貴重なご懇志をありがとうございました。

お寺の掲示板

尊敬
ご先祖を敬う心は
自身の生命を尊ぶ心である
第八組・安樂寺